

総評〔中学生・小学生の部〕

高知県立文学館学芸課長 津田加須子

二〇二〇（令和二）年度、大原富枝賞の応募数は、小学校の部が二十五篇、中学校の部が三十一篇、その中から、一次審査を通過した小学生の部十篇と中学生の部十篇を読ませていただき、最優秀賞を各一篇ずつ選びました。

小学校の部は「ふるさと」。中学校の部は「空の碧さ」です。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大で、私たちの生活は一変してしまいました。

学校は休校。日々の集密を避け、消毒の徹底、マスクの着用と自分たちの身を守るために、色々な規制が設けられました。

そんな真つ只中ですので、私たちに希望を与えてくれる作品を選びました。

生まれ育った興津の素晴らしさを一生懸命に伝えてくれた「ふるさと」。曇り空の間から見えた青空に感動する作者を通して、本当の豊かさとはなにかについて考えさせられた「空の碧さ」。この二作品は、とても素直な筆致で綴られています。

新型コロナウイルス感染拡大という社会情勢の中で、家族との触れ合いを描いた作品が多く見られました。温かいまなざしが家族に向けられ、これまでは、気づかなかつた平和な家庭の営みに喜びを見出した作品が印象に残りました。

また、今年は、中学校三年生の中に、高校生になったら、小説で大原富枝賞にチャレンジしていただきたいと思う方がいました。是非、書いてみてください。楽しみにしています。

最後に、大原富枝賞に応募してくださいださった児童・生徒のみなさんに心からお礼申し上げますとともに、これからも「書くことを楽しむ」作文と向き合っていただければと願っています。